

授業概要

家庭の代替としての養護実践について現状と今日的課題を踏まえた上で、実践への応用ができるような知識・視点を身につけるために、具体的な事例を多く取り上げながら専門的な援助方法について講義する。

各施設や機関における職員間の連携、子どもへのかかわり方について映像資料による分析を行いながら実際の場面で応用できる視点と留意点について講義する。

授業計画

| | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 児童養護の法的根拠・体系・今日的課題 |
| 第2回 | 社会的養護のあり方の現代的方向性 |
| 第3回 | 施設養護のあり方 ケアの個別化と小規模化 |
| 第4回 | 児童虐待防止法・児童福祉法の改正 |
| 第5回 | 基本的人権と子どもの最善の利益 |
| 第6回 | 生活支援と学習支援保障 |
| 第7回 | 自立支援保障の原則 |
| 第8回 | 家庭支援と地域子育て支援 |
| 第9回 | 乳幼児・障がい児への特別支援の原則 |
| 第10回 | 発達・年齢段階に応じた養護 |
| 第11回 | 自立支援計画の作成と実践 |
| 第12回 | 危機介入・訪問指導 |
| 第13回 | 自立援助と家庭復帰 |
| 第14回 | リービングケアとアフターケア |
| 第15回 | 事例研究とディスカッション |
| 第16回 | 試験 |

到達目標

- ・教育・支援における養護実践の基本的な視点を身につけることができる。
- ・養護実践の理論と実際を具体的な事例をとおして理解を深めることができる。
- ・個々の発達状況に応じた自立支援について理解を深めることができる。
- ・リービングケア・アフターケアについても理解を深めることができる。

履修上の注意

春期の「社会的養護」で学んだ内容についてさらに深く学ぶので、「社会的養護」を履修しておくことが望ましい。

児童養護分野で職員として働く場合をイメージしながら学習してほしい。

予習・復習

次回あつかうテキストの該当部分を読み込み、当日の授業で疑問に感じた点を自分なりに調べてみる。

評価方法

授業内小レポート 30%、学期末試験 60%、受講態度 10%。

テキスト

なし。（関連する資料を配付します）